

# 那須烏山

— No.113 —

2015  
February

# 2

Public Relations Magazine  
of Nasukarasuyama City

平成27年成人式	2
第9回那須烏山市駅伝競走大会	6
まちの話題	12
インフォメーション	14
各地で「どんど焼き」	16

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



大人への第一歩(1月11日、平成27年那須烏山市成人式)



平成27年

# 成人式



今年、全国の新成人人口は126万人で、男性は65万人、女性は61万人と前年と比べて5万人増加し、21年ぶりに新成人人口が増加しました。市内では、268人の新成人が誕生し、そのうち221人が式典に出席しました。

今月号では、1月11日(日)に開かれた成人式の様子を紹介します。

## 新成人が新たな門出を迎える

1月12日(日)の成人の日を前に、11日(日)、平成27年「那須烏山市成人式」が風月カントリー倶楽部で開かれました。

当日は、市内の新成人268人のうち、221人が華やかな振袖や羽織袴、スーツに身を包んで出席。小中学校の恩師や市関係者など多くの来賓から祝福を受けました。

会場には、式の始まる30分以上前から新成人が次々と集まり、旧友との再

会に笑顔を見せていました。



本市の成人式は、例年、新成人たちによる実行委員会が中心となり、準備を進めます。今年のテーマは、「道々煌の彼方へ」…。このテーマを元に、アトラクションの考案や当日の司会進行など、12人の実行委員が企画・運営して行われました。



式典を前ににぎわう会場。

式典では、大谷範雄市長が、「新成人の皆さんには、これからの人生で困難が降りかかることがあるかもしれないが、家族や生まれ育った故郷はいつでも応援している。若いうちにたくさんチャレンジし、自ら選ぶ人生を自らの力で切り拓いていってほしい」とあいさつ。続いて、佐藤昇市市議会議長、三森文徳県議会議員が祝辞を述べました。そして、新成人を代表して実行委員長の見目彬門さんが、「これからの時代は不安なことが多く、時には下を向いてしまうことがあるかもしれないが、自分の足でしっかりと歩んでいきたい。新成人の皆さんには、今日を機にそれ



(右上から左下へ)新成人代表のあいさつ/恩師からのメッセージ披露/上原チヨによるお笑いミニライブ/笑いが絶えないアトラクション/自己紹介するコンテスト出場者/コンテストの当日投票/成人式実行委員会のみなさん。

ぞれのステージで煌いてほしい」と力強くあいさつしました。

アトラクションでは、小中学校時代の恩師からのビデオメッセージが披露され、当時の懐かしい思い出話や祝福の言葉が新成人に贈られました。続いて、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの栃木県住みます芸人「上原チヨ」による「抱腹絶倒」上原チヨ「お笑いミニライブ」では、市内の観光地や特産品などを題材としたトゥートゥー体操が披露され、会場は

笑いの渦に包まれました。そのほか、上原チヨを司会に、中学校時代に煌いていた人を当日投票で決める「あこがれのあの人は今」煌No.1コンテスト「が行われ、盛り上がりを見せました。最後には、記念写真を撮影し、約2時間に及んだ式は終了しました。

その後も、会場や駐車場周辺には、懐かしい旧友と記念撮影や近況報告する人の輪が広がり、お互いの輝かしい前途を笑顔で祝い合う姿がみられました。

# 新成人に聞く

成人を迎え、大人の仲間入りした新成人のみなさんに「夢」や「目標」を話してもらいましたので、紹介します。



成人式会場でのスナップ写真をご覧ください。



## 成人おめでとうございます

●写真ご希望の方は総合政策課広報統計担当まで●



## 船山元樹さん (熊田)



成人を迎えて思うことは、選挙権などの“権利”が与えられ、成人として社会に溶け込んでいかないとけないということです。一方で、あと2年間ある学生生活…。将来の夢に向かって様々なことに挑戦することが必要だと思えます。

下江川中学校出身、宇都宮工業高校を卒業し、現在、宇都宮大学教育学部技術教育専攻2年生。「教師」になるために勉強中。

私は、母校の工業高校でロボットの設計や組み立てなど、ものづくりを教えること、つまり「教師」になることが将来の夢です。しか

し、工業高校の教員試験の倍率は約30倍。その数字を聞いて心が折れそうになりますが、幼い頃からものづくりが好きだった自分に、さらにものづくりの楽しさを教えてくれた学び舎で、自分と同じような気持ちを持った学生を育てたいです。3年生になると2週間にわたり小学校や中学校での実習があります。胸を張って児童生徒に教えられるよう努力していきたいです。

## 金久保真也さん (小木須)



幼い頃に行った消防署見学。それが、「消防士になりたい」という夢を持ったきっかけでした。高校卒業後、念願の職業に就くことができ、2年目となった現在、成人を迎え、ますます気を引き締めて業務にあたっています。

烏山中学校出身、烏山高校を卒業後、南那須地区広域行政事務組合消防本部小川分署警防第1課に所属し、「消防士」として活躍中。

この地域は他地域と比べて災害が少ないのですが、いつ起きてもいいように日々、訓練を重ね非常時に備えています。しかし、自分

の知識や技術はまだまだ…。もっと勉強が必要だと思うばかりです。

目標とする上司は、後輩から親しまれ知識も豊富。いずれは、そんな上司を超えられるような人になりたいです。また、「人の命がかかっている」ということを十分に理解し、自分が幼い頃「カッコいい」と夢を思い描いた消防士に一歩ずつ近づいていきたいです。

## 菊池涼乃さん (鴻野山)



私の将来の夢は「看護師」になることです。そのために、現在、専門の大学に通い講義や実習を通して必要な知識を学んでいます。実習では、現場での大変さを肌で感じ、「自分は本当に看護師になることができるのか?」と思った時もありました。しかし、患者さんからの温かい言葉や、なにより家族の支えがあり頑張ってみようと思えることができました。

荒川中学校出身、烏山高校を卒業し、現在、国際医療福祉大学保健医療学部看護学科2年生。「看護師」になるために勉強中。

特に、2年生からは勉強に専念するため、学校の近くで一人暮らしを始めました。私の夢のために環境を整えてくれた家族には心から感謝しています。今後、3年生の9月からは半年間の実習、4年生になれば国家試験が待っています。時には、落ち込むことや不安になることもあると思いますが、支えてくれる家族のためにも、自分の夢のためにも、あと2年間必死で学び「立派な看護師」になりたいです。

## 川上拓真さん (大桶)



幼い頃から、自動車やバイクが好きだった私は、現在、専門学校で、測定法や製図の基本、各種汎用工作機械の基礎などの操作加工を通して機械技術者としての幅広い知識と技能を学んでいます。

七合中学校出身、烏山高校を卒業し、現在、県立産業技術専門学校機械技術科2年生。機械の専門分野を勉強中。

自動車の部品を製造する企業にも内定が決まり、4月からは、社会人として働き始めます。期待と不安が入り混じる中、大人の仲間入りをした以上、専門学校

で学んだことを生かし、一つひとつのことに「責任感」を持って仕事をしたいです。また、ゆくゆくは旋盤という工作機械を使って技能レベルを競う「技能五輪全国大会旋盤職種」で優勝することを目標としています。

まだまだ私は技能的にも知識的にも未熟ですが、日本一の技術者を目指し、初心を忘れず頑張っていきたいです。

号砲を合図に小学生選手が烏山運動公園を一齐にスタート。



第1中継所でのタスキつなぎ。



強風の中、烏山大橋を走り抜ける選手たち。



選手に沿道から声援を送る。



9区の繰上げスタート。



# 第9回 那須烏山市 駅伝競走大会

二連覇を達成した中央北。



準優勝の藤田。



区間賞の選手を表彰。



## 中央北が 二連覇を達成

第9回那須烏山市駅伝競走大会が、1月18日(日)に開かれ、烏山運動公園から保健福祉センターまでの10区23.3kmで熱戦が繰り広げられました。今年、13チームが参加し、中央北が2位の藤田に3分26秒もの大差をつける圧倒的な速さで二連覇を達成しました。

冷たい風が吹き荒れる中、午前9時から行われた開会式では、体育協会の松本武会長が、「平日頃の練習の成果を発揮し、頑張ってほしい」とあいさつ。そして、選手を代表して中央北の小林知真さんと、荒川RCの羽藤夏輝さんが力強く宣誓しました。

午前10時、号砲を合図に小学生選手が烏山運動公園を一齐にスタート。沿道では、多くの市民が選手に声援を送りました。第1中継所では、山あげAの塩野目友都選手がトップでタスキをつなぎましたが、2区で中央北の柳田尚皓選手が区間賞の走りで、3位から一気に1位に躍り出ました。その後も中央北は、5区の吉葉拓也選手、10区の小林知真選手が区間賞の力走をみせ、順位を譲ることなく優勝のゴールテープを切りました。

トップを追う2位以下では、めまぐるしく順位を入れ替える好レースを繰り広げました。その中で、準優勝の藤田は、1区で8位と出遅れたものの、その



## 大会結果

### ■総合成績

①中央北	1 時間25分48秒
②藤田	1 時間29分14秒
③鴻野山A	1 時間29分21秒
④七合	1 時間31分00秒
⑤山あげA	1 時間31分07秒
⑥志鳥	1 時間31分26秒
⑦南那須消防	1 時間34分31秒
⑧ハヶ代	1 時間35分01秒
⑨鴻野山B	1 時間37分58秒
⑩荒川RC	1 時間42分27秒
⑪山あげC	1 時間44分16秒
⑫市役所	1 時間44分58秒
⑬山あげB	1 時間45分45秒



### ■区間賞(敬称略)

1 区(1.2):塩野目友都(山あげA)	4 分10秒
2 区(2.1):柳田尚皓(中央北)	6 分23秒
3 区(2.4):川俣翔(藤田)	8 分44秒
4 区(3.0):石川佳樹(七合)	10分08秒
5 区(2.8):吉葉拓也(中央北)	10分03秒
6 区(2.6):渡辺海人(鴻野山A)	9 分46秒
7 区(2.2):照内修佑(鴻野山A)	8 分41秒
8 区(2.7):赤野太一(志鳥)	9 分34秒
9 区(1.5):阿久津光希(七合)	5 分19秒
10区(2.8):小林知真(中央北)	9 分42秒

※( )は区間距離km・チーム名



後は徐々に順位を押し上げ、ついに9区で2位に浮上し、そのままゴールしました。

鴻野山Aは、6区で2位につき8区までキープしますが、9区で藤田に抜かれ3位となりました。

二連覇を遂げた中央北の武井修監督は「念願の連覇を達成することができて良かった。来年は、三連覇を狙ってきたい」と話していました。

総合成績と区間賞は、上表の通りです。

## 企業誘致・定住促進で市内活性化

# 「空き家等情報バンク制度」などを改正しました

平成27年1月1日、本市への定住・企業誘致の受け皿として役割を果たしてきた「空き家等情報バンク制度」及び「工場用地等登録制度」を改正しました。これまでに以上に活用が期待される両制度。制度充実・拡充には、県宅地建物取引業協会や民間団体との連携をはじめ、地域の皆さんの協力が非常に重要です。

市では、制度改正にあたり昨年11月26日(水)に商工会館で両制度の「素案説明会」及び「空き家等情報バンク制度」仲介支援宅業者募集説明会を行いました。空き家バンクに関する交渉は当事者間で行うことが原則ですが、今回、新設した「仲介支援制度」を利用する場合、宅地建物取引業者による仲介が可能となりま

す。参加者からは、さまざまな意見が出され「登録物件が多くなれば発展性がある」と期待の声も寄せられました。なお、1月15日(水)は「仲介支援制度」に係る協定を那須烏山市と栃木県宅地建物取引業協会において締結しました。各種情報は今後ホームページなどで随時更新していきますので、ぜひご覧ください。

### 【空き家等情報バンク制度】

空き家等情報バンクとは、空き家等の資源を有効活用し、定住促進による人口増と地域の活性化を図るための制度です。

本市は、「空き家バンク事業」を平成19年度から先駆けて実施していますが、近年、全国的に空き家を求める需要は高まりつつあります。今後もし引き続き、田舎暮らしや二地域居住などのニーズに合わせた本市ならではの物件を

充実させ、地域活性化やにぎわいの創出を図っていきます。

### 【事業用地等情報提供制度】

本市において、平成19年度に創設・運用してきた「工場用地等登録制度」を改正し、新たに「事業用地等情報提供制度」として内容を充実させ、登録物件の増加を図ります。栃木県を含む北関東3県は、企業立地が非常に多く、本市においても、太陽光発電所立地など活用例が多々あり、登録物件が少なくなりました。

現在も、県や各企業から企業の進出先に関する問い合わせが多くありますが、「工業団地」に空きのない状況です。このことから、市では、地域住民からの事業用地の提供・登録を推進し、企業誘致の受け皿を整備するため、今回

制度を改正しました。企業誘致の実現には、地域の皆さんの物件登録がとても重要です。特に地域の方がまとまって一団の土地として登録をすると非常に魅力的な事業用地となります。



各制度の「素案説明会」(11月26日)。



県宅地建物取引業協会との締結。



上:風速30メートルの大風を体験。  
下:防災リュックづくりに挑戦する参加者たち。

「ごきょうごう時のための準備をしよう！」

## 災害ボランティア講座を開講

市社会福祉協議会(丸山眞一会長)では、1月17日(日)、栃木県防災館と那須烏山消防署で、「災害ボランティア講座」を実施し、市民12人が災害体験に参加しました。

この講座は、地震や豪雨など全国各地で近年規模が大きくなる災害に備えて、災害時に地域で活動できる人材を育成し、防災に対する意識を市民に高めてもらうために初めて開かれたものです。

当日、最初の見学地、県防災館では、地震、大風、煙などの災害体験や館内を見学しました。初めて体験する震度7の大きな揺れや風速30メートルの大風に参加者たちは驚いた様子。もし本当

に起きたら…」と話し合う姿も見られ、災害の恐ろしさを肌で感じることでできたようです。

続いて場所を移し、那須烏山消防署では、防災リュックづくりを体験。水やラジオ、懐中電灯など災害時に必要な備品を確認しました。その後、消防署員からの災害に関する講話や消防署見学をし、防災への知識を深めました。

また、社協では、3月3日(火)から3月24日(木)まで南那須図書館で「福祉標語・ポスター及びボランティア・NPO活動PRポスター展示」、3月7日(日)には、障がい者理解のための講座の開催を予定しています。

## 烏山高校と足利工業大学が共同研究

### 烏寶線鉄道唱歌の解明に挑む

那須烏山市まちづくり研究会に所属する足利工業大学の学生3人と烏山高校の生徒3人が「烏寶線鉄道唱歌」を題材にした研究を共同で行い、唱歌の解明と地域資源の活用による「まちづくり」を提案しました。

烏寶線鉄道唱歌とは、昭和5年ごろ作られた烏山線の鉄道唱歌。今回、烏寶線鉄道唱歌のコピーを約6年前に同大学工学部の福島二朗准教授が市内で入手したのが

きっかけで研究が始まりました。

研究は、福島准教授の指導で、5月から唱歌の歌詞の解明と20編の全文を書き起こし、学校や建物跡、風景など59の固有名詞を抽出。その後、8月には、3日間かけて地域住民から手がかりを探りながら59箇所を歩いて調査をしました。

唱歌の解明から、自然景観の豊かさや歴史に根差した物語性が地域の大きな魅力になり得ることや、近代後期以降のヒストリーツーリズムの資料として活用できることなどが結論付けられました。

研究に参加した烏山高校3年の池田尚樹さん(滝田)は、「調査をして、さらに地元の那須烏山市に興味がわいた。これからも研究していきたい」と話していました。

また、同研究は、「大学コンソーシアムとちぎ第11回学生&企業研究発表大会(大学コンソーシアムとちぎ主催)」で「鹿沼相互信用金庫理事長賞」を受賞しました。



烏寶線鉄道唱歌の解明に挑んだみなさん。

■鉄道唱歌とは…明治時代(1900年)の流行曲。当初「地理教育鉄道唱歌」と銘打たれており、歌自体も教育の役に立つよう路線を通じて各地の名所を巡る紀行文の形式をとっている。また、倒幕と明治維新により日本は急速に近代化を果たし、それまで馬車や人力車しかなかった時代に大容量の都市交通手段である蒸気機関車や鉄道を含めた舶来の技術が発達したことから、歌詞中には鉄道を含めた交通の近代化に関する礼讃が散見される。